
仮面ライダーディアス 世界を廻る記録者

ディケタス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーディアス

世界を廻る記録者

【Nコード】

N6243Q

【作者名】

ディケタス

【あらすじ】

ある世界が滅びようとした時一人の少年はライダーの力を手に入れた。世界を救う為に仲間と共に世界を廻る。

世界の記録者ディアス。世界を廻り全てを記録せよ！

初心者で初執筆作品なためそんなに良くないですが、アドバイスをくださったら嬉しいです？

どうぞ末長くみてください

携帯から投稿しているので読みにくいかもしれませんがわかってください。

第1話 記録者（前書き）

初執筆作品なので出来は良くないですがどうぞみてください！
アドバイス待ってます。

第1話 記録者

この世界は仮面ライダーがテレビで放送されている世界。

仮面ライダー好きの少年神矢創記は家に帰ろうとしていたが目の前に灰色のオーロラが現れた。

創記「ん？あれは確かディケイドに出てくるオーロラ、まさか・・・」

灰色のオーロラから

「やっぱり怪人が！なんで出てくるんだ！速く逃げない！」

逃げていると怪人達が町で暴れていた。

創記「なんでこんな事に・・・」

その時少女が一人足をくじいて動けないのが創記の目に入った。

創記「あいつ、あんなところにいたら危ない。助けないと！」

駆け寄る創記。

「???」「このままじゃ・・・」

創記「おい！大丈夫か！」

「???」「足をくじいてしまつて・・・」

創記「肩貸してやるから速く乗れ！」

「???」「ありがとう」

創記「ところで、お前の名前は？」

「???」「私は真理しんり 龍美たつみ15歳よ」

創記「龍美か、俺の名前は神矢創記だ。同じく15歳」

龍美「創記ね。ありがとう。ところで、何故こんなことに」

創記「俺これと同じようなこと見たことある。仮面ライダーディケイドの第一話で光夏海の世界が崩壊しかけた時と一緒にだ。俺にも力があれば」

「ーキイーン

高い音が鳴り鏡からミラーモンスターが現れ龍美を狙う。

龍美「きゃあ！」

創記「（くそ！こんなところで一人も助けられずに死ぬのか。俺に力が、みんなを守る力が欲しい！）」

その時、創記の手に赤いディケイドライバーに似たものが現れた。

創記「これは・・・これを使えば、俺も」赤いディケイドライバーに似た者を腰つけるとベルトが現れた。

そしてカードを取り出しバツクルを開け、

創記「变身！」

《カメンライド ディアス》

仮面ライダーへと姿を変えた。

創記「仮面ライダーディアス・・・それがこいつの名前か」

龍美「創記？」

創記「待つてろよ、すぐに終わらせる。」

ディアスは両刃の斧と弓になる

ライドブラッシュを使いどんどん倒していく。

創記「はあ！これで人間サイズのミラーモンスターは大体倒した。
次はでかい方を」

《カメンライド ナイト！》

ディアスは蝙蝠に似た騎士 仮面ライダーナイトに姿を変え

創記「そして、このカードを」

《アタックライド ソードベント》

仮面ライダーナイトの武器、ウイングランサーを出し大きい奴にダメージを与えていく。

創記「はあ！最後は必殺技で！」

《ファイナルアタックライド デイデイデイデias》

創記「ハアア！」

カードがあらわれそれを縦回転しながら潜って放つデiasディメ
ンジョンスマッシュを喰らいミラーモンスターは倒された。

創記「俺は皆を絶対に守る！」

第1話 記録者（後書き）

創記「という訳で始まった『仮面ライダーディアス 世界を廻る記録者』」

世界はどこを行くんだ？」

ディケタス「世界はいわゆる二番目のライダーと作者オリジナルライダーの世界だ。（ファイズのみデルタ）」

創記「ふうん、そうなんだ。」

龍美「私も仮面ライダーに変身する？」

ディケタス「龍美は自分が考えた仮面ライダーを使うつもり。楽しみにしててね。アドバイスや質問は感想に書いてね」

龍美「わかった（o^_^）b」

ディケタス「さてこれからを楽しみにしてください」

龍美 創記「みてくださいね！」

第2話 世界への道（前書き）

サブタイトルは思い付かんかった。
まあ、みてくださいね

第2話 世界への道

ディアスは変身を解き龍美に近寄った。

創記「ふう、大丈夫か、龍美？」

龍美「大丈夫よ。ありがとう。でもこれからどうすれば・・・」

眩しい光が創記と龍美を包んだ

創記 龍美「ウワッ！」

光が収まると宇宙に地球がたくさんある空間に龍美と創記はいた。

創記「ここは？」

???「ここはパラレルワールドへ行くための中継の世界。そして再び危機にさらされています」

創記「お前は紅渡！危機にさらされてるとはどういう事だ？」

紅渡「ディケイドはすべての世界を確立させました。しかし再びそれぞれのライダーの世界に異常が起きています。ディケイド達は原因を探っています。ディアス、あなたはそれぞれのライダーの世界を危機から救ってください。それと真理龍美、貴方もです」

龍美「何故私が？」

紅渡「ディアスは世界に創像されたものを記録する戦士。貴女はディアスを補助する巫女の内の一人です。だから貴方にも行ってもらわなきゃ行けません」

創記「だがどうやって他の世界に行くんだ？」

紅渡「ある家に貴方達を移動させます。そこから移動できます。この世界は僕たちが崩壊を止めておきます。辛いでしょうが頑張ってください。では」

再び光が創記と龍美を包むとある家の前に二人はいた。

創記「ここからか・・・行くぞ龍美！」

龍美「私も世界を守らなきゃいけないらしいしね！」家に入るとそこに有ったのは一つの映写機とスクリーンだけだった。

創記「なんだこの映写機？」

急に映写機が動きスクリーンに映されたのは黒い蝙蝠と蝙蝠に似た騎士の戦士の姿。

創記「行く場所はナイトの世界か・・・」

第2話 世界への道（後書き）

ディケタス「第2話完成！」

創記「次はナイトか」

ディケタス「龍騎とか好きなので」

龍美「私は創記を補助する巫女なんだね」

ディケタス「オリジナル女性仮面ライダーに変身させるつもりだからね。待っててね」

龍美「はい」

ディケタス「では次回楽しみに」

設定編！（前書き）

ディケタス「え、本来この話はナイト編のつもりでしたが、設定は載せるところという事で今回は設定編です。」

創記 龍美「え〜！」

ディケタス「どうもすいませんでした。設定編を楽しみにお読みください。」

設定編！

仮面ライダーディアス

世界の記録者と言われている仮面ライダー。基本カラーは赤色で複眼は青。ディアストライバーはディケイドライバーが赤色になったもの。武器は両刃の斧になるライドブラッシュ。イメージはリュウケンダーのザンリユウジンを顔の部分をバーコード状にして金の部分を取ったもの。ベルトの後ろに使わない時は小さくなって付いている。カードホルダーはディエンドの物を赤くした物。

ナイト等二号ライダー等にカメンライドで変身できる。

通常時の必殺技は巨大なカードを出現させそれを縦回転しながら潜って放つディアスディメンジョンスマッシュ、同じく巨大なカードを出現させてそれを潜りながらクロスに切り裂くディアスディメンジョンブレイク、矢をカードに通過させて放つディアスディメンジョンアロー。

隠された能力として、どんな記録にも入り改ざんすることができるアカシックレコードのカードがある。

神矢創記 15歳、特撮好きな少年。ある日自分のいる世界に怪人が現れ、そこに現れたディアストライバーを使い変身し窮地を切り抜け、紅渡に言われ、世界を救う旅にでる。野菜はキュウリなどが大嫌い。怪談なども嫌いである。（怖がらせるのは好き）

ピザなどは大好き。

性格は基本的優しいがキレたら怖い。人を見下す奴は大嫌い。見た目はティルズ オブ ジ アビスのルーク（短髪の姿）。仮面ライダーに関連する事はよくしってるので、敵の分析は得意。

真理龍美 15歳

足をくじいて動けなかったところを創記に助けてもらった。その後、紅渡にディアスを補助する巫女と言われ、世界、そして創記を助けるために旅に同行する。

料理は上手い方で性格はおとなしい。

運は強い。ちょっと頑固なところがある。

ちよつと空手をやっている。

見た目はティルズ オブ ジ アビスのティアを優しくした感じ。

設定編！（後書き）

ディケタス「という訳で終わった」

創記「ナイト編楽しみにしてたのに、許さん！変身」

ディケタス「へ？」

《カメンライド ディアス》

ディケタス「何作者に逆らっとんじゃ！変身！」

《カメンライド ディケイド》

ディケタス「お仕置きだ！」

《アタックライド ブラスト》

創記「くっ！」

龍美「何やってるのディケタス！変身！」

ディケタス「あの仮面ライダーは、俺が考えていた、記録者を補助する巫女が変身する・・・ぎゃあああ！」

龍美「大丈夫だった？創記？」

創記「ありがとう、龍美。では」

創記 龍美「お楽しみに」

ディケタス「う．．（血流れまくり）」

第3話 蜘蛛のライダー（前書き）

ディケタス「更新遅れてすいません」

総記「はああ、この作者め、こないだみたいにするか？」

龍美「殺っちゃう？」

ディケタス「やめて！。まあそれはさておき第3話蜘蛛のライダー」

全員「ご覧ください」

第3話 蜘蛛のライダー

仮面ライダーナイトがいる龍騎の世界にやってきた総記と龍美。

総記「何から調べようか？」

龍美「まず道端の人に聞いて見ようよ」

という訳で近くにいた青年に話を聞こうとしたが

総記「あのー仮面ライダーの事何か知って」

その時鏡からミラーモンスターが現れた。

総記「くそ、またか。少し待って、すぐ片付ける、変身！」

《カメンライド ディアス》

ディアス「さあ、行ってくるか！」

龍美「頑張ってね！」

ミラーワールドに入ったディアスはミラーモンスターに駆け寄って、

ディアス「さて、他の仮面ライダーのカードは使えないけどやるか
！」

《アタックライド イリユージョン》

ディアスは六人に分身し、

ディアス「そして、これも！」

《アタックライド アロー》

ライドブラッシュをアローモードにしてミラーモンスター達を射つて倒していき、

ディアス「これで終わりだ！」

《ファイナルアタックライド デイデイデイディアス》

ディアスディメンジョンアローで敵を喰らいミラーモンスターは全員倒された。

ディアス「ふう、これで全員片付けたな。うん？あれは？」

別の所では・・・

ナイト「く・・・」

《ナックルベント》

蜘蛛のライダー「これでお前もおわりだ！消えな！」

蜘蛛のライダーは刺がいつぱい生えたグローブでナイトを殴ろうとするが

ディアス「やらせるか！」

蜘蛛のライダー「何！」

ディアスがライドブラッシュで防ぐ。

ディアス「大丈夫ですかレンさん」

レン「何故俺の名前を！」

蜘蛛のライダー「ちい！邪魔がはいつたか！そろそろ時間だし帰るとするか、俺は仮面ライダースパイダル、覚えておきな！じゃあな！」

仮面ライダースパイダルは去っていた。

ディアス「スパイダルか・・・何者なんだ？それはさておきレンさん、さっさと出ないと」

レン「あああ」

二人は現実世界に戻った。

龍美「大丈夫、総記？」

総記「ああ大丈夫だ。それより羽黒レンさん何故あなたはライダー裁判に出ているのですか？」

レン「それは・・・俺の親友の辰巳シンジが殺人容疑で捕まってるからだ」

第3話 蜘蛛のライダー（後書き）

ディケタス「という訳で第3話終了！そして・・・こい！ガンダムDX人間サイズ！」

総記「何ガンダム出してんだ！」

龍美「ホントホント」

ディケタス「前回の復讐だ！だがその前に！」

別の世界にワープしたディケタスと総記

総記「なにつ！」

ディケタス「前は龍美に邪魔されたからな、ガンダムDXいけ！」

総記「まだ変身してないのに！」

ビームサーベルで切り付けようとしたその時、

龍美「またやるとはいいい加減にして！いけ！ガンダムダブルオーライザー人間サイズ！トランザム！」

オーロラから瀕死の鳴滝を連れて龍美がやってきた。

ディケタス「え！ちよつまって、ぎゃあああ！」

総記「ありがとう龍美。でもどうやってここに？」

龍美「鳴滝を脅してきたの。」

総記「そうか、では次回も」

二人共「よろしく！」

ディケタス「また・・・このパターンか、ガク」

第4話 犯人探しの始まり（前書き）

ディケタス「第4話始まりますよ」

総記「あれ？まだ生きていたんだ」

龍美「灰にしときゃよかった」

ディケタス「それはやめて！まあ第4話 犯人探し」

全員「始まります！」

第4話 犯人探しの始まり

総記「なんだって！詳しく説明してください」

レン「あれは数日前、シンジはペット屋へ取材していた。だが取材している途中、その店の店長がナイフで刺されていたんだ。その時部屋にいたのはシンジと店長のみだった。だがあいつはそんな事するやつじゃないのはわかってる。だから真犯人捕まえる為にライダー裁判に参加しているんだ」

総記「そうでしたか。でもいったい誰が犯人なんだ？」

レン「それは俺にもわからない。だがあの仮面ライダースパイダルという奴は何かある」

龍美「仮面ライダースパイダルは誰が変身してるのかわからないです」

レン「わからない。長年仮面ライダー裁判の事書いてきたが、あいつは初めて見た。ところで何故君は俺の名前を？」

総記「ちょっと信じてもらえないかも知れませんが、僕達は他の世界から来ました」

レン「なんだって！詳しく聞かせてくれ！」

レンに仮面ライダーディアスや何故旅をしているのか、話し終えた総記と龍美。

レン「にわかには信じられないが、君が仮面ライダーディアスに変身してるとなれば信じるしかないか」

龍美「ありがとうございます」

総記「僕達の家でゆっくり考えましょう」

レン「ああ、そうだな」

創記達が家に帰ろうとすると

不良「おい！そのねえちゃん。どっかいかねえか」

典型的な不良は龍美の手を掴むが

レン「おい！やめ」

不良「ゲハア！」

総記「なに人に手をだしとんだ！」

不良を殴っては蹴る総記。

龍美「これで終わり！」

不良「ゲハア！」

龍美は留めに空手チョップで気絶させる

総記「強いな！龍美」

龍美「当たり前だよ！空手習ってるんだから」

レン「は・はは（怒らせると怖いな）」

総記「さあ、家に行きましょう、レンさん」

レン「あああ」

第4話 犯人探しの始まり（後書き）

ディケタス「という訳で第4話終了!」

総記「というか、俺と龍美の身体能力強いな」

ディケタス「そりゃね」総記は仮面ライダーだし龍美は空手やってるしね。まあそれはさておき、仮面ライダーディアスのライドブラッシュ、アックスモードとアローモードの必殺技説明始めるよ。という訳で召喚!」

創記達の前にバットオルフェノクと魔獣メガノーマが現れた。

龍美「って1匹リュウケンダーの奴じゃん!」

ディケタス「まあ気にせずに。こいつらを練習相手に頑張ってね!」

総記「はああ、仕方ない。変身!」

《カメンライド ディアス》

総記「一気にいくぜ!」

《アタックライド イリユージョン》

ディアスは二人に増え、

総記「そしてこれで、終わりだ!」

《ファイナルアタックライド ディディディディディアス》

総記「はああ！」

巨大なカードを出現させてそれを潜って 相手にライドブラッシュ
アックスモードで敵をクロスに切り裂くディアスディメンジョン
ブレイクでメガノーマを、同じく巨大なカードを出現させそれに矢
を通過させてはなつディアスディメンジョンアローでバットオルフ
エノクを倒す。

怪人達「ぎゃあああ！」

総記「ふうかたづいた」

ディケタス「頑張ったね総記」

龍美「大丈夫だった総記！」

ディケタス「ほんじゃ次回も」

全員「よろしく！」

第5話 ライダーバトル（前書き）

（今回から毎回の前書きと後書きの地の文が私のセリフとなります。
）

創記&龍美「遅いんじゃない！」↑ダブルキック

グハア！

数分後・・・

どうもすいませんでした。

結構不定期に更新するのでご了承下さい。てなわけで第5話

『ライダーバトル』

全員「スタート！」

第5話 ライダーバトル

創記「着きましたよ、レンさん」

あれから約15分後、創記達は家に着いた。

レン「ここが君達が住んでいる家か・・・」

龍美「そんなに大きくありませんけどね」

創記「さあ、どうぞ」

レン「あああ」

部屋に入った三人。

創記「ところで・・・店長を殺した犯人の目星はついていますか？」

レン「彼はペットショップでは高値でペットを売り付けたりいろいろ悪評があつたようだ」

創記「そうですか・・・、ちょっと情報集めに行きます」

レン「あああ、俺もいろいろ調べないといけないからな」

龍美「怪我しないでね」

創記「大丈夫、じゃあ、行ってくる」

龍美「いつてらっしゃい」

数十分後・・・

創記「ふう、ある程度目星がついたな。だが証拠が・・・」

高鳴り音が創記に聞こえると

創記「この音まさか！」

近くにある鏡にはガイとシザースが写っていた。

創記「スパイダルじゃない・・・、でもシンジさんを無罪にする為に倒すか」

人のいないところに行く創記

創記「此処ならばれない・・・、変身！」

《カメンライド ディアス！》

ディアス「行くぜ！」

ディアスはミラーワールドに入ったらすぐさま

ディアス「勝負だ！ガイ」

ガイとシザースを見つけて勝負を挑む

ガイ「お前がディアスカ・・・頼むが倒されてもらっぜ」

《ストライクベント》

メタルホーンを装備すると。

シザース「俺も忘れ無いでくれ、兄貴」

《ストライクベント》

シザースもシザースピンチを装備し二人纏めてディアスに挑んで来る。

ディアス「はあああ！」

ディアスは受けて立つが

ガイ「オリヤアア！」

さすがに2VS1だと苦戦を強いられるディアス。

創記「く・・・数が多いか！ならばこれだ！」

《アタックライド イリユージョン》

6人に分身し

シザース「分身しただと！」

創記「行くぜ！」

一人を三人ずつで攻撃するディアス

シザース&ガイ「くう！分身なんて卑怯だ」

創記「お前らが言っな、これで終わりだ！」

《《《《《ファイナルアタックライド　ディディディディ
ス！》》》》》

創記「はあああ！」

ガイ「俺達がやられてたまるか！」

《《ファイナルベント》》

ガイとシザースはそれぞれヘビープレッシャーとシザースアタック
で攻撃するが

ディアス「甘い！」

ディアスはディアスディメンジョンアロー×6でガイとシザースの
カードデッキを正確に狙い破壊した。

ガイ&シザース「何！ウワァア！」

現実世界に戻ったシザースとガイの変身者。　ディアスも現実世界
に戻る。

創記「こいつらは俺を倒すように依頼を受けたように言ってたな・
・、目が覚めたら聞かか」

同じ頃、ライアはべつの場所である相手と戦っていた。その相手は・

スパイダル「これで終わりだ」

《アームズベント》

体にもう二本腕が装着し

スパイダル「ハアア！」

ライア「ウワアア！」

カードデッキを連続パンチで破壊され現実世界に戻るライアの変身者。

スパイダル「まだまだ、目障りな奴を倒さなきゃな・・・」

第5話 ライダーバトル（後書き）

という訳で第5話 『ライダーバトル』 どうでしたか。

創記「ガイとシザースが今回は相手だったな」

シザースはやられ役としてはいいからね。ガイは原典で二人目の死亡者だし。

龍美「スパイダル強いね」

アビスと同格にしようと思ったので。

では次回も

三人共「よろしく！」

第6話 犯人発見（前書き）

どうもディケタスです？久しぶり！

創記「本当にそうだな」

龍美「更新毎回遅いんだよ」

ゴメン、では第6話 犯人発見

三人共「スタート！」

第6話 犯人発見

シザースとガイを倒した20分後。

創記「羽黒レンさん、犯人がわかりました。蜘蛛弥恭介くもやききょうすけです」

レン「だが証拠は？」

創記「目星をつけていた二人がガイとシザースになって私と戦ったのですが、その二人から事情を聞いてみると誰かにデッキを渡されたらしくそれが蜘蛛弥恭介らしいです。」

レン「よし、早速他の人からききこむか」

創記「はい！僕も行きます」

龍美「いつてらっしゃい」

30分後

創記「なかなか情報が集まらないな。そちらも見つかりましたか」

レン「いや、まだだ」

？「もういい加減にしようぜ。お二人さんよ！」

創記「お前は蜘蛛弥恭介！お前がスパイダルか」

蜘蛛弥「ああそうだ！あの店長殺して、辰巳シンジを容疑者にしたのもな！あいつは俺の正体知ってしまったからな。」

レン「シンジに濡れ衣をきせたのもお前か！」

蜘蛛弥「あいつは邪魔だったんだよ。前にあいつとあの破壊者によって倒された奴らがいたからな。そしてオーディンからついにあの二つのカードを手に入れたからな」

創記「許さねえ、絶対に！」

レン「お前を倒してシンジを助ける！」

三人共「変身！」

スパイダル「さあ、始めようぜ、ライダーバトルをな」

第6話 犯人発見（後書き）

という訳で第6話 犯人発見 どうでしたか。

？（男）「ハアア、早く俺達の出番こねえかな」

？（女）「まあ、いいじゃん」

ちよつとまで！お前ら次の世界のだろうが、次の次の話で出るから待て。

？（男）「わかったよ、じゃあな」

？（女）「じゃあね」

創記&龍美「あの二人だれ！」

次の世界のキャラだ、楽しみにしてね。
では次回

三人共「よろしく！」

第7話 鏡の中の三人の騎士（前書き）

どうも久しぶりディケタスです。今回でナイト編完結。力入れてるので楽しんで読んでください？

では鏡の中の三人の騎士

三人共「スタート！」

っていつのまにか創記と龍美がいる！！

第7話 鏡の中の三人の騎士

《ソードベント》

ナイトの手にウイングランサーが現れる。

ナイト「ハアア！」

スパイダル「喰らうか！」

スパイダルはナイトの攻撃を避ける。

スパイダル「これはどうだ」

《アームズベント》

体に二本腕が装着されたスパイダル

スパイダル「もう一つ」

《ナックルベント》

手に刺がたくさん付いているグローブを装着したスパイダル

スパイダル「それ！」

スパイダルに翻弄される二人。

ナイト「グハア！」

ディアス「レンさん！」

スパイダル「よそ見してんじゃね！」

ディアス「グハア！」

《ネットベント》

ディアス「く・・・動けない」

ナイトが倒れたことに気をとられてしまい、網に掛かって動けない二人

スパイダル「そこで見ときな」

スパイダルの目の前にコアミラーが現れた。

ディアス「あれはコアミラー！どうする気だ」

スパイダル「ミラーワールドと現実世界を融合させるのさ」

ディアス「何だって、そんなことしたらお前も！」

スパイダル「大丈夫何だよ。俺はミラーモンスターだからな」

ディアス「ミラーモンスターだって！」

スパイダル「俺はコアミラーから生まれたディスパイダーと同じ種族のミラーモンスターだ。だがミラーモンスターの中では弱い方だ

った。だがあいつにこのカードデッキをもらった。そしてこの体はある男の体を奪って手に入れた、この力を使ってこの世界を俺の物にするのさ。まあ、ゆっくり見てな、ミラーワールドが現実世界と融合する所を」

《アクセスベント》

コアミラーにアクセスして暴走させるスパイダル。

創記「何も出来ないのか、何も！」

スパイダル「これで世界は俺の物だ！ハハハハ・・・、何！お前は」

ファム「そんなこと絶対にさせない！」

ディアス「龍美！」

スパイダル「チィ、邪魔が入ったか」

コアミラーにアクセスするスパイダルを止めたのはファムに変身した龍美だった。

ファム「今、助けるね」

網を切るファム

ナイト「ありがとう」

ディアス「ほんとにありがとうな」

スパイダル「こうなったら三人共死にな！」

ナイト「死んでたまるか、シンジを釈放しなきゃいけないからな」

スパイダル「ふん！人間なんか他人の才能を妬んで裏切るだけだ、羽黒レン、お前みたいにな」

ディアス「確かにそうだ。でもな、この人は自分の間違いに気づき手を繋げた。何百回裏切ろうとも何百回手を繋ぎ合わせられる。それが人間だ！」

スパイダル「お前は何なんだ！」

ディアス「世界を廻る記録者だ、覚えとけ！」

ディアスのカードホルダーからナイトのカードが飛び出して来て絵柄が現れる。

スパイダル「これで倒してやる」

《アドベント》

目の前に巨大なディスパイダー、ディスパイダー・キングが現れる
スパイダル「こいつらもだ！」

灰色のオーロラからゲルニユートが大量に現れた。

ディアス「龍美はあのイモリどもを頼む」

龍美「わかった」

ディアス「そして、レンさん、ちょっと痛いですよ」

《ファイナルフォームライド ナナナナイト》

ナイト「な、何！これは・・・」

ディアス「これが僕たちの力です」

ナイトの姿はダークウイングより一回り大きいナイトダークウイングになっていた。

スパイダル「変形しただと！」

ディアス「行きますよ」

ナイト「あああ」

《アタックライド スラッシュ》

ディアス「ハアア！」

ライドブラッシュで切り裂いてゆくディアス

スパイダル「クツ、舐めるなあ！」

ナックルで殴り掛かるが。

《アタックライド インビジブル》

スパイダル「何、消えただと！」

ディアス「後ろだ！」

《アタックライド アロー》

スパイダル「グワァ！」

インビジブルのカードで姿を消し、後ろからライドブラッシュをアローモードに変形して攻撃するディアス。

ナイト「ハアア！これでどうだ！」

デイスパイダー・キング「キシヤアア！」

ナイトもデイスパイダー・キングを翻弄してダメージを与える。

《ファイナルベント》

ファム「ハ！フ！ヤアア！」

ファムはブランウイングが翼で起こした突風で吹き飛ばされた敵をウイングスラッシャーで斬るミステースラッシュでゲルニユートを全滅させた。

スパイダル「これで終わらせてやる！」

《ファイナルベント》

スパイダルはデイスパイダー・キングに自らを投げさせてパンチを

するスパイディクラッシュを使うが

ディアス&ナイト「スパイダル、お前がお前が終わりだ！」

《ファイナルアタックライド ナナナナイト》

ディアス&ナイト「ハアア！」

スパイダル「グワアア！」

ナイト「クウイングがディアスの背中に付きナイトの飛翔斬に似ているが巨大なナイトのFARカードを潜りながら放つディアスバットスピンをディスパイダーごと倒されたが・・

ナイト「やったか」

恭介「く・・・、だが、もうコアミラーは絶対に壊せず暴走は止められない。じゃあな」

創記「待て！」

恭介はまだ生きており灰色のオーロラに逃げる。

ディアス「ち、逃げられたか」

ファム「創記、大丈夫だった？」

ディアス「あああ、大丈夫だ。でもどうすればコアミラーを、ん？これは・・」

ディアスのカードホルダーから、カードが飛び出してそのカードには【アタックライド アカシックレコード】と書いてあった。

ディアス「今はこれを使うしかない。頼むぞ」

《アタックライド アカシックレコード》

ディアスの腕が光りコアミラーに触れると

ディアス「（これは、コアミラーにアクセスしてる？このままやれば・・・）」

ファム「あっ！現実世界とミラーワールドとの融合が止まって元に戻ってゆく・・・」

ディアス「く、ウワァア！」

ディアスはコアミラーに弾かれてしまう

ファム「創記！」

ディアス「大丈夫だ、もうミラーワールドと現実世界が融合することとは無い。ミラーワールドは消せなかったけどな。でもこのカードが・・・」

【アタックライドアカシックレコード】のカードは絵柄が消えていた。

ナイト「でも、この世界を守れた。シンジも釈放できる。ありがとう」

創記「いや、皆の力です」

ナイト「そうだな」

現実世界に戻ってきた三人。

創記「僕たちは次の世界に行かなきゃならない。なのでここでお別れです」

レン「そうか・・・元気に頑張れよ」

創記「はい！じゃあさようなら！」

龍美「さようなら！」

レン「頑張れよ。お前達」

家に戻ってきた二人

創記「ところで龍美、そのカードデッキどうやって手に入れたんだ」

龍美「薄茶色の服に眼鏡をしてるおじさんに」「これを君に渡そう。世界を守る為に」って。でもこれどうしよう？。」

創記「（まさか、「おのれ、ディケイド！」とうるさいあいつが・・・

・)そうか・・・まあ、そのまま持っていた方が安全だからな。自分か貰つとけ」

龍美「わかった。でも喉渴いたな。お茶飲もう」

椅子から立とうとした龍美は映写機に当たってしまい、何故か映写機が起動しスクリーンに現れたのは左と右に別れて天国と地獄が描かれ白のガイアメモリと黒のガイアメモリで二つ共イニシャルはH。

創記「ヘル・・・とヘウヰンの世界」

第7話 鏡の中の三人の騎士（後書き）

という訳で第7話 三人の鏡の中の騎士どうでしたか。

創記「ところでどうやって恭介が店長を殺したんだ？」

自分のデイスパイダー・キングに包丁を操って店長に刺したんだ。

龍美「私も仮面ライダーになったよ」

このままだと龍美が空気になる可能性もあるからね。ファムはあくまでも龍美がオリジナルライダーに変身する間の繋ぎということだ。

創記「俺のあの力はいったい・・・」

今後わかってゆくからお楽しみに！

龍美「次の世界はオリジナルライダーか」

しっかり頑張るので楽しみに。

では次回も

三人共「よろしく！」

第8話 人探しとドーパント（前書き）

どうもディケタ「遅いんじゃない!」
ゲハア!

改めて、どうもディケタスです。

遅れてすみません!

創記「いい加減にしろよディケタス」

ごめんなさい!

さあ今回から新しい世界!

第8話 人探しとドーパント

全員「スタート!」

第8話 人探しとドーパント

龍美「ヘルとハウ^ンて地獄と天国の意味だよね」

創記「あああそうだ。でもそんな名前のライダーいないはずなのに何故名前が・・・」

創記が考えていると。

？「あのく失礼します。依頼をしにきたんだけど」

突然女性が依頼をしにきたと現れた。

創記「依頼？」

？「そうだよ。ここ探偵事務所でしょ。看板にも書いてあるよ」

創記「看板？」

外に出てみると、

創記「神矢探偵事務所・・・、確かにあるな」

龍美「まあ、ここは依頼を聞こうよ」

創記「そうだな・・・」

彼女の名は雷光^{らいこう} 天羅^{あまら}。依頼内容は『行方不明の親友、獄炎^{ごくえん} 刃也^{じんや}を探してほしい』とのこと。

天羅「突然居なくなっただ。警察にも頼んだけど手がかりは無い」

創記「わかりました。依頼は受けます。絶対探してだから安心してください」

天羅「ありがとうございます！」

創記「では早速探しに行きますので。龍美、後は頼むぞ」

龍美「わかった。行ってらっしゃい！」

創記「ああ」

数十分後・・・

創記「手がかりがほぼ無い・・・。本気でどうしよう？」

創記は全然手がかりが掴めていなかった。

不良「おい！そこのガキ！」

創記「誰がガキだ。誰が」

不良「死んでもらうぜえ」

《マグマ》

不良はUBSメモリに似た機械、ガイアメモリを取り出し、体にあるコネクタに刺しマグマの怪人、マグマドーパントになった。それに驚いて逃げる人達。

創記「ドーパント！でも弱い方だから良いか。人も居なくなった事だし」

マグマドーパント「俺が弱いだと、ふざけるな！」

マグマドーパントは溶岩を飛ばすが。

創記「変身！」

《カメンライド ディアス》

ディアスに変身して防ぐ

マグマドーパント「仮面ライダーだと！」

ディアス「この町では仮面ライダーは良く知られているのか・・・、まあ一気に倒す！」

《アタックライド アロー》

マグマドーパント「グハア！舐めんじゃねえ！」

アローを受けてダメージを負うが溶岩をディアスに向けて飛ばす。

《アタックライド インビジブル》

マグマドールパント「消えただと！」

ディアス「こつちだ！」

《アタックライド スラッシュ》

インビジブルで避けてスラッシュで敵を切り裂き続ける。

マグマドールパント「グ、こ、このクソガキがあ！」

《ファイナルアタックライド デイデイデイディアス》

ディアス「はあああああ！」

マグマドールパント「グワアア！」

マグマドールパントからすこし離れてからディアスディメンジョンブレイクでマグマドールパントを倒してメモリブレイクしたディアス。

ディアス「やっぱりこの世界にガイアメモリがあるか、まあ、一旦帰るか」

変身を解除しようとしたが

？「ハアア！」

ガキン！

ディアス「ガハア！」

何者に後ろから切られてしまう。

創記「く、お前は何者だ！」

切った相手の姿は仮面ライダーエターナル（レッドフレア）に似てるが頭の触覚はHの形で白色のところは黒色、複眼は赤で両手にはエターナルエッジと同じ形の物が一つずつある。ドライバーはロストドライバーに似てるがスロットが有るのは左側で赤のラインがある。

その名は・・・

？「仮面ライダー・・・ヘル！」

第8話 人探しとドーパント（後書き）

第8話 人探しとドーパント、どうでしたか？

創記「俺は今回は探偵か・・・」

W系のオリジナルライダーの世界だからね。

龍美「今回はマグマドーパントか・・・」

W第1話に出てきたドーパントだし、倒されるのによかったしね。

創記「仮面ライダーヘル・・・か」

設定いろいろ考えましたからね。次回のバトルをお楽しみに。

では

三人共「次回もよろしく！」

第9話 地獄の戦士とのバトル（前書き）

遅くなつてすみません！

創記「お前な・・・まあ手直しもあつたけど」

龍美「今度はできるだけ速く書いてね」

分かりました！

創記「今回は俺とヘルのバトルか・・・」

頑張つて書いたので楽しみにしてください！

では第9話 地獄の戦士とのバトル

全員「スタート！」

第9話 地獄の戦士とのバトル

ディアス「お前が仮面ライダーヘルか。何故俺を攻撃する？」

ヘル「黙れ！世界の改ざん者ディアス！話は聞いている。お前のせいでえええ！・・・」

ヘルはディアスにヘルエッジで切り掛かるが

ディアス「くっ！（改ざん者？どういう意味だ？）まあ仕方ない。こうなったら、」

ライドブラッシュで防ぎ、

《カメンライド》

ディアス「バトルで話を聞いて貰おうか」

《ナイト》

蝙蝠の鏡の戦士、仮面ライダーナイトへと姿を変えた。

その頃龍美達は・・・

龍美「創記遅いなあ、何してるんだろう？あつ、天羅さんコーヒーをどうぞ」

天羅「ありがとう」

事務所で話していた。

天羅「（メモリ（・・・）が熱い？）」

ポケットにある物に異変を感じると龍美に見えないように見ると白いHのガイアメモリが輝いていた。

天羅「（まさか・・・）すいません、そろそろ帰らないと」

龍美「え！？帰るんですか？」

天羅「うん。じゃあまた」

天羅は事務所を出て何かを目差して走っていった。

龍美「急に・・・何なんだろう？」

場面は変わりDナイト達は・・・

ヘル「姿が変わった！？」

ディアスナイト（以下Dナイト）「まだまだあるぞ！」

《アタックライド ソードベント》

Dナイト「ハアアア！」

Dナイトはウィングランサーを呼び出しヘルに攻撃する。

ヘル「くっ！まだだぁあ！」

ダメージを受けたヘルはヘルエッジに炎がまとわりその炎をDナイトに投げつける。

Dナイト「くっ！炎系か！」

それをライドブラッシュとウイングランサーで防ごうとするが一発当たってしまう。

Dナイト「ならば、三対一ならどうだ」

《アタックライド トリックベント》

Dナイトは三人に分身し、

ヘル「分身した！？グハア！」

華麗な連携でヘルにダメージを与える。

ヘル「こうなればあれを・・・！」

ダメージを受けたヘルは左手を地面に触れるが

ヘル「（これを使えば俺の体は・・・、だが俺が勝たないとこの世界は！）地獄に眠る獄炎よ、龍となって相手を焼き尽くせ！獄炎龍！」

一瞬動きを止めるが気にせず呪文を唱え出てきたのは、獄炎の龍

であつた。

Dナイト「炎の・・・龍・・・だと・・・」

ヘル「ジ・エンドだ」

獄炎の龍はDナイトを目掛けて飛び、消え去つた時は何も残つていなかった。

ヘル「これで・・・終わつたか・・・」

ヘルがDナイトを倒して油断したその時

Dナイト「甘い！」

ヘルの後ろにある鏡からDナイト現れヘルを攻撃しダメージを与える。

ヘル「何で・・・生きているんだ!？」

Dナイト「俺には鏡から鏡を渡れる能力があつてそれで避けたんだ」

ヘル「ちい!こうなつたらこれでお前を倒す!」

《ヘル マキシマムドライブ》

ヘルがメモリをマキシマムスロットに入れ足に獄炎がまとわる。

Dナイト「俺もお前をこれで倒す!」

《ファイナルアタックライド ナナナナイト》

Dナイトも必殺技を使う準備をする。

ヘル「ゴー・トゥ・ヘル！」

Dナイト「はああああ！」

飛翔斬と獄炎を纏い放つ回転キック、『ゴー・トゥ・ヘル』がぶつかるが、

天羅「やめてええ！」

ヘル&Dナイト「天羅^{さん}！？くっ！うわああ！」

爆発が起き、止んだ時にいたのは変身が解除された創記と・・・、

天羅「刃也！」

天羅が探していた獄炎刃也だった。

創記「ヘルが獄炎刃也！？！」

天羅は刃也に駆け寄るが、

刃也「近寄るな！今の俺は・・・俺はああ！」

次の瞬間刃也の姿は悪魔と野獣が混ざったような姿になっていた。

天羅「じん・・・や？」

創記「獄炎刃也か怪人・・・だと」

刃也怪人体「グオオオ!!」

第9話 地獄の戦士とのバトル（後書き）

第9話 地獄の戦士とのバトル、どうでしたか？

創記「デイクタス！何で刃也が怪人になってるんだ！」

それは次回に分かる・・・はず。

龍美「『はず』かい！」

グハ！↑叩かれた

創記「ヘルは結構強いな」

まあね！尚この話のヘルはまだ完全じゃないんだよ。

龍美「完全じゃない？」

まあそれは次回分かる・・・はずなので。

では

全員「次回もよろしく！」

第10話

事情説明（前書き）

《ヘル マキシマムドライブ》

ヘル「ゴー・トゥ・ヘル！」

ギャアアア！

数分後・・・

どうもすみません！更新が遅れすみません！

しかも前回予告していた刃也が怪人体になった理由ももう少し後になります！

今回も今までよりも短いと思います！

しかも今回のサブタイトルも良いのが考えられませんでした！
本当にすみません！

創記「何やってんだ！本当に！」

龍美「あれ？何で刃也がいるの？」

今回から刃也と天羅、前書きと後書きに出る事になった。（前書きと後書きでは全員呼び捨て）

龍美「へえ」

では第10話

事情説明

天羅「スタート！」

刃也と天羅以外の全員「おい！」

第10話

事情説明

刃也怪人体「グガアア！」

刃也怪人体は衝撃波を天羅に向かって放ち

天羅「きゃああ！」

創記「く・・・防げない・・・」

防ぐ事も出来ず、天羅に当たると思われたが・・・

天羅「え・・・！？」

創記「外れた・・・？いや、外した？」

攻撃が外れ、別の所に当たった。

刃也怪人体「グギャギャ！」

刃也怪人体はどこかに逃げていった。

創記「逃げたか・・・、天羅さん、あなたと刃也さんの事で隠してる事全て教えてください」

天羅「はい・・・」

別の所では・・・

刃也「く……、早く俺を殺さないと……」

刃也が苦しみながら歩いていた。

？「早く心を委ねなよ」

刃也「黙れ……！お前の思い通りには……」

所は移って、創記達は探偵事務所に戻っていた。（ディアスの事は既に説明した。）

創記「さて、獄炎刃也が何故仮面ライダーヘルとして戦っていたかを……」

天羅「刃也だけじゃない。私も仮面ライダーヘヴンとして戦ってきた！」

天羅は白いHのメモリ、ヘヴンのメモリを取り出した。

創記「あなたも……、教えてください、あなた達がどうして仮面ライダーになったのかを……」

天羅「はい……」

そして、天羅は語る……。仮面ライダーヘルと仮面ライダーヘヴンのビギンズナイトを……

第10話

事情説明（後書き）

第10話

事情説明、どうでしたか？

創記「やっぱり天羅もライダーか」

天羅が仮面ライダーヘヴンというのは、初めから決まっていたからね。

龍美「刃也に喋っていたのは誰？」

それはこのヘル&ヘヴン編が終わるまでには分かります。

天羅「私、まだ戦っていないんだけど？」

次回には必ず戦います！

刃也「次回は俺と天羅が仮面ライダーになったあの夜、ビギンズナイト」

楽しみにしてください。では

全員「次回もよろしく！」

第11話

ヘル&・ヘヴン・ビギンズナイト

(前書き)

どうもディケタスです！

今回はヘルとヘヴンのビギンズナイトです！

天羅「私もちゃんと戦うんだよね？」

しつかり天羅も戦いますよ。
あと・・・

龍美「あと？」

ヘルの強化フォーム出ます！

四人共「ハアアアアア！？」

龍美「速すぎるでしょ！」

まあまあ落ち着いて・・・。

さて、第11話 ヘル&・ヘヴン・ビギンズナイト

一人を覗き全員「スタート！」

創記「お前は良いよなあ・・・どうせ俺なんか・・・」

創記以外の全員「あ・・・」

第11話

ヘル&ヘヴン・ビギンズナイト

天羅「私と刃也の家は家族ぐるみで付き合いがあった。そして一年前、私達は旅行をしていて、別荘に泊まっていた。その夜だった・・・」

一年前・・・

刃也は別荘の近辺にあるベンチに座っていた。

天羅「おい、刃也、何してるの？」

刃也「いや、来年俺達何してるのかなって考えていたんだ」

天羅「そうだね、今みたいに平和でいたら良いよね」

だがそれが叶う事は無かった。

天羅「ところであっち、なんか明るくない？」

刃也「お、おい！あっちは俺達の別荘がある所じゃねえか！」

天羅「え！？、まさか・・・、早く行かなきゃ！」

そしてたどり着いた時には・・・

刃也「な、何でこんなことに・・・」

天羅「パパ達は・・・？パパ達はどこ！？」

？「うつ・・・」

刃也「父さん！」

声の主は刃也の父、獄炎 豪助だった。だが周りは炎に包まれもう時間は無かった。

豪助「お前達はこれを持って逃げる・・・。奴らに絶対に渡すな・・・！」

そういつて二人にあるケースを渡す。

刃也「父さん、なにいつてだよ！死ぬなよ！」

豪助「お前達は生きろ・・・」

そついつて豪助の姿は炎に包まれ消えていつた。

刃也「父さあああん！」

天羅「おじさん何で・・・！何で！」

そんな所に・・・

シャークドローパント（以下シャーク）「いたいた。こんなところに居たぜ」

ヒートドローパント（以下ヒート）「さつさと片付けましょう」

ヒートドローパントとシャークドローパントが現れた。

刃也「お・・・らが・・・やつ・・・のか」

シャーク「あああ？何を言ってるんだ？」

刃也「お前らがやったのか！」

シャーク「そうだよ！なんか悪いか！そもそも・・・」

刃也「くっ・・・」

天羅「うつ・・・」

シャーク「お前らはもう死ぬんだよ！」

ドーパントに首を捕まれている二人

刃也「まだ・・・まだ死んでたまるか！」

天羅「私もまだ死ねない！」

ケースをドーパントにぶつける二人。

シャーク「なめやがつて・・・」

その時、ぶつけた時にロックが解除されたのかUSBメモリに似た物が差し込んである二つのドライバーが落ちた。

ヒート「ドライバー！それをこちらに寄越しなさい！」

刃也「断る！こうなつたら、悪魔になつたとしても、生きる！」

そういつて二人はそれを腰に近づけるとベルトが形成される。

ヒート「ならベルトごと消えなさい！」

そういつて炎を二人に放つが

《ヘル》

《ヘヴン》

獄炎と雷に阻まれる。そして現れたのは・・・

刃也「この姿は・・・」

天羅「いつたいなに！」

H 字型の触角を持ち、黒色の体に両腕には炎が書かれ、複眼の色は赤、左側にしか、スロットが無い黒色に赤のラインをしているドライバー、ヘルドライバーをしている戦士、仮面ライダーヘル。

そして同じくH 字型の触角を持ち、白色の体に、両腕には雷が書かれ、複眼の色は黄色、右側にスロットがあり白色に黄色のラインをしているドライバー、ヘヴンドライバーをしている戦士、仮面ライダーヘヴン。

天国と地獄の二人の戦士が現れた。

ヒート「仮面ライダーになつてしまったか！また慣れない今の内に！」

二人に、襲いかかるドーパント達だが

ヒート「グハッ！」

シャーク「グガッ！」

ヘル「いける、この力なら！」

ドーパント達に攻撃するヘルとヘヴン。

ヒート「くっ！なら熱いのはどっ？」

シャーク「喰らえ！」

ヒートドーパントは熱で攻撃、シャークは歯を弾丸として相手に放つが

ヘル「お前はどんなんだ？」

ヘヴン「ならこっちも！」

ヒート「カハッ！こっちが燃える・・・」

シャーク「何だと！」

ヘルは獄炎を体にまとい攻撃し、ヘヴンはハンドガン型の武器、ヘヴンマグナムで弾丸を撃ち落とし、相手にダメージを与える。

ヘル「これで終わりだ！」

《ヘル マキシマムドライブ》

《ヘヴン マキシマムドライブ》

ヘルはコンバットナイフの武器、ヘルエッジにヘルメモリを、ヘヴンはヘヴンマグナムにヘヴンメモリを差し込む。

ヘル&・ヘヴン「ハアアア！」

ヒート&・シャーク「グワアア！」

ヘルは獄炎をまとったヘルエッジで切り裂くヘルスラッシュ、ヘヴンは高濃度の電気の弾をヘヴンマグナムで撃つヘヴン・ザ・シユートを放ちドーパント達を倒し、ヤクザ風の男と女が倒れる。

ヤクザ風の男「俺が負けるだと・・・」

ヤクザ風の女「ヤバい、速く逃げないと」

ヘル「おい！まて！」

ヤクザ風の男と女が逃げようとするが、

ヤクザ風の男と女「カハアッ！」

ビーストドーパント（以下ビースト）「本当に使えませぬねえ。敗者は死、あるのみ。それが組織の決まりです」

ビーストドーパントが殺す。

ヘル「ふざけんな・・・!」

ビースト「何です?」

ヘル「お前ら、命を何だと思っている!」

ヘルの横の空間が割れ、そこから黒い恐竜型のガジェットが現れそれをメモリモードに変形させ、スタートアップスイッチを押され聞こえてくるガイアウィスパーは、

《デストロイ》

ヘルドライバーからヘルメモリを抜き、デストロイメモリを差し込みドライバーを倒す。

《デストロイ》

ヘル「ウオオオオ!」

そして現れたのは、体が荒々しく成り、身体中から刃が突き出て、赤いラインが体に走る戦士、仮面ライダーヘルデストロイ。

ビースト「何です!?!その姿はデータにありませんよ!?!」

ヘル「グオオオオ!」

《マッハデストロイ》

ビースト「消えガハア!」

ビーストドーパントが驚くがヘルはタクティカルホーンを一回叩き、高速移動を発動し、敵を切り裂く。

ビースト「クウウ！だがこんな傷ぐらいすぐに回復・・・しないだ
と！何故だ！」

デストロイメモリに宿る記憶は破壊。ビーストドーパントの再生能力を破壊したのだった。

《ショルダーデストロイ》

ヘル「ハアアアア！」

ビースト「グギヤアアア！」

今度はタクティカルホーンを二回叩くと、肩に更に刃が生え、それを相手向かってに投げそれは意思があるように自由自在に動きながらビーストドーパントを切り裂く。

ヘル「ハアアアア・・・」

《デストロイ マキシマムドライブ》

ヘル「ハアアアア！」

ビースト「グワアアアア！」

タクティカルホーンを三回叩きデストロイメモリのマキシマムドライブを発動させ、跳び回し蹴りの要領で敵を切り裂くジ・デストロイヤーで敵を倒し、黒服の男が倒れる。

黒服の男「私が負けるなんて、うわあああ！」

黒服の男が一目散に逃げるがヘルは、

ヘル「グッ！ガアアア！」

変身解除され、刃也は膝をつく。

ヘヴン「大丈夫！？」

ヘヴンも変身解除し、刃也に駆け寄る。

刃也「喰われるかと思った……。そして結局守れたのは天羅だけだ……」

天羅「刃也……」

一方ビーストドーパントに変身してた黒服の男は……。

黒服の男「はあ、はあ、速く逃げなければ」

？「おい、待てよ」

黒服の男「あなた様は！」

？「敗者は死、あるのみだったよな。消えな」

黒服の男「うわあああ！」

そして残ったのは、紫色の仮面ライダーだった・・・

第11話

ヘル&ヘヴン・ビギンズナイト（後書き）

第11話 ヘル&ヘヴン・ビギンズナイト、どうでしたか？

創記「汚してやる、太陽なんてええええ！」

《カメンライド ディアス》

ディアス激情態「うおおお！」

龍美「激情態、きたあああ！？」

《デストロイ マキシマムドライブ》

《ヘヴン マキシマムドライブ》

ヘル&ヘヴン「ハアアア！」

ディアス激情態「ギヤアアア！」

ボロボロの創記はおいときましよう。

龍美「おいとくの！？」

刃也「俺の強化フォーム、ヘルデストロイか」

イメージはW ファングジョーカーの刃を全部出した感じです！

天羅「私も強化フォーム出るの？」

しっかり出ます！能力はヘルデストロイと対になるものです！

天羅「ほぼ答えじゃん」

では

創記以外の全員「次回もよろしく！」

創記「ケホッ！」↑傷だらけ

第12話

天国と地獄と記録者（前書き）

どうもディケタスです！今回はひとつお詫びしなければならない事があります。第10話でこのヘル&ヘヴン編が終わるまでに、刃也に話しかけた謎の相手がわかると言いましたが、それを入れた展開だと、パワーバランスが崩れるため、後に回すことにしました。本当にすいませんでした。

刃也「お前いい加減にしろよ」

すいません・・・。

創記「それはさておき、ようやく俺の出番！」

龍美「はああああ・・・ようやく地獄兄弟状態から回復したよ・・・」

天羅「大丈夫？」

刃也「あいつらはほつといて、ようやく今回はヘル&ヘヴン編が完結だ。さて、第12話　天国と地獄と記録者」

全員「スタート！」

というからお前がタイトルコールかい！

第12話

天国と地獄と記録者

創記「そんな事が・・・」

天羅「でも急に居なくなつて、ようやく見つけたと思ったら、怪物に・・・。何で！何でこんな事に・・・！」

？「それは俺が教えてやろう」

天羅「誰！？」

創記「お前は蜘蛛弥恭介！何故ここに！」

蜘蛛弥「まあまで。獄炎刃也が怪人になつた事から教えよう。ヘルメモリとヘヴンメモリは他のメモリよりも強力だな・・・、ドライバーを使つても毒素が体に回り次第には人外になる。そして俺がここにいる理由だが、あのときお前らに倒された時この世界に逃げた。そしてあいつに合う事で新たな力を得た！この紙に書いているところに行け。獄炎刃也を助けたかったからな」

創記「待て！」

蜘蛛弥はそう言い残し鏡の中に消えた。

天羅「・・・私は・・・」

創記「行きましよう天羅さん」

天羅「え・・・」

創記「助けたいんですよ」

天羅「・・・はい！」

創記「なら行きましょう！獄炎刃也を助けに！」

数時間後・・・。創記達はある廃工場に来ていた。

龍美「ここが蜘蛛弥恭介がいるところだね」

創記「どこだ！出てこい！蜘蛛弥恭介！」

蜘蛛弥「後ろだ！」

創記「な！」

創記達の後ろにある鏡から現れる蜘蛛弥恭介

天羅「刃也を返して！」

蜘蛛弥「まあまあそう焦るな。慌てなくとも出してやる。ただし・・・」

刃也怪人態「グオオオオ！」

蜘蛛弥「暴走してるがな！」

現れる刃也怪人態。

創記「やっぱり……」

天羅「刃也……、今助ける！」

《ヘヴン》

天羅「変身！」

《ヘヴン》

天羅の姿は天国の力を秘めし白き戦士、仮面ライダーヘヴンに変わる。

創記「俺達も！」

創記達も変身しようとするが

《ミラー》

ミラードーパント（以下ミラー）「お前達の相手はこの俺だ」

蜘蛛弥恭介が変身した鏡の破片が身体中にちりばめられている怪人、ミラードーパントに変身し、創記達の前にふさがる。

創記「お前を相手にしてる間なんてないのに！変身！」

龍美「私も！変身！」

《カメンライド ディアス》

創記はディアスに、ファムに変身する。

刃也怪人態「ウオオオオ！」

ヘヴン「くっ！ハアッ！」

ヘヴンはヘヴンマグナムで刃也を撃つが
刃也怪人態「ガアアア！」

ヘヴン「えっ！ガハッア！」

簡単に避け、ヘヴンに攻撃する

ミラー「オラオラオラ！どうしたどうした！」

ディアス「くっ！」

ミラードーパントはそこまで攻撃力はないが、鏡から鏡へ渡れる能力と遠距離系の攻撃を反射する能力でディアス達を翻弄する。

ファム「これはどう！」

《ガードベント》

ミラー「くっ！目眩まし！」

《アタックライド スラッシュ》

ディアス「ハアッ！」

ミラー「グハッ！」

ファムはウイングシールドを召喚しそこから羽毛を撒き散らしミラードーパントに目眩ましをして、スラッシュのカードで強化されたライドブラッシュで攻撃する。

ヘヴン「はああはああ」

刃也怪人態「速く俺・・・をこ・・・ろせ」

ヘヴン「刃也！？」

急にしゃべりだす刃也。

刃也怪人態「もう・・・俺・・・は・・・自我を・・・保てない・・・。
俺は・・・もう人間・・・ですら・・・ない・・・。速く・・・俺を・・・」

ヘヴン「いや！何で一人で抱え込むの！もう大切な人を失いたくない！」

心に秘めていたことをさらけ出すヘヴン。

ヘヴン「だから・・・」

刃也怪人態「グッ!？」

刃也に抱きつくヘヴン

ヘヴン「私が解放する!」

刃也怪人態「グッ、グギャアアア!」

光だすヘヴン。

ヘヴン「はああああ!」

刃也怪人態「ガアアア!」

より一層輝くヘヴン

ミラー「何だこの光!」

ファム「ま、まぶしい!」

そして、光が止んだ時、そこにいたのは

刃也「俺は・・・生きているのか?」

天羅怪人態「ちゃんと生きているよ刃也」

人間の姿に戻った刃也と天使のような姿の天羅だった。

刃也「俺のせいでお前も怪物に・・・」

天羅怪人態「ううん良いんだよ。刃也を助けられたから・・・」

そう言つて天羅は人間の姿に戻る。

ミラー「くそ！獄炎刃也が正氣に戻ったか！こうなったら・・・」

次の行動を考えるミラードーパントだが

《スパイダー》

ミラー「グッ！？これは！？グワアアア！」

ディアス「何！？」

ガイアウイスパーが聞こえミラードーパントの姿を変えていく。その姿は・・・

ディアス「デイスパイダー！？」

ナイトの世界の怪物、デイスパイダーそっくりだった。名付けるのならデイスパイダードーパントというのが妥当な存在だった。

デイスパイダードーパント（以下デイスパイダー）「キシヤアアア！」

刃也「あんなやつがいたら町が！」

ディアス「止めよう！絶対に」

天羅「うん！」

《ヘル》

《ヘヴン》

刃也&天羅「变身！」

《ヘル》

《ヘヴン》

天羅は再び仮面ライダーヘヴンに、そして刃也は地獄の力を秘めし黒き戦士、仮面ライダーヘルに変身する。

ディアス「ん？これは・・・！」

そしてディアスのカードホルダーからカードが飛び出し絵柄が現れる。

ディアス「龍美は少し足止めしといてくれ！」

ファム「わかった！」

ディアス「そして・・・、二人ともちよつと痛いぞ！」

ヘル&ヘヴン「えっ？」

《ファイナルフォームライド　へ・へ・へ・へ・ヘル》

《ファイナルフォームライド　へ・へ・へ・へ・ヘヴン》

ヘヴンエンジェル「これは・・・」

ヘルデビル「あのときより力がみなぎる・・・」

ディアス「これが俺達の力だ！さあ、行こう！」

ヘルデビル「あああ！」

それぞれ天羅怪人態、刃也怪人態に似てるが、黄色、赤のラインが入っているヘヴンエンジェル、ヘルデビルへとファイナルフォームライドした。

ヘルデビル「ハアアアア！」

ヘヴンエンジェル「はあっ！」

デイスパイダー「ギギャ！」

ヘルデビルは格闘、ヘヴンエンジェルは羽を飛ばして攻撃する。

ディアス「これで終わりだ！」

《ファイナルアタックライド　へ・へ・へ・へ・へ・ヘル》

《ファイナルアタックライド　へ・へ・へ・へ・へ・へヴン》

ディアス「ハアアア・・・ハアアアア！」

デイスパイダー「グギャアアア！」

ヘルデビルとヘヴンエンジェルの力をライドブラッシュに集め切り裂くディアスヘルヘヴンスラッシュでデイスパイダードーパントを見事倒した。

ディアス「今度こそ倒したか」

ヘル「ありがとう、本当に」

ディアス「いや、皆の力だ」

皆変身を解除する。

龍美「ところで二人はどうするの？」

刃也「二人でドーパントを倒していく。お前らは？」

創記「まだ俺達は行くところがある。だからここでお別れだ」

刃也「そうか……。お前らも頑張れよ」

創記「ああ。じゃあさよなら！」

刃也「ああ。じゃあな！」

そして4人は別れる。

一方別のところでは……。

？「あいつも死んだか。もうここは破棄するか。あの世界の方がガイアメモリは広げやすいし、あれもどこかに行ってしまったしな」

謎の男はそう言ってオーロラの中に消えていった。

そして研究所では・・・

研究員A「がはっ！」

研究員B「くっ！何故我らの邪魔を！！」

謎の男女に研究員達が倒されていた。

謎の男「お前らが理由を知る必要はない。ここで死ぬからな」

《マスカレイド》

マスカレイドドーパント「ふざけるな！お前らは何なんだ！」

研究員はマスカレイドドーパントになり、謎の男女に聞くが

謎の男「俺達か？通りすがりの仮面ライダーと」

謎の女「・・・全てを凍結させる仮面ライダー・・・」

謎の男「あの世でも覚えときな」

そう謎の男女はそう応え、男は腕のメカにカードを入れ、女は青色のロストドライバーに青いFのガイアメモリを差し込み、

謎の男 & a m p ・謎の女「変身！（・・・変身）」

《カメンライド デイルスト》

《フロスト》

・・・その時、二人を除くその場所にいた人間は凍結した。

そして家に戻った創記達は・・・。

創記「仮面ライダーヘルと仮面ライダーヘヴン・・・、強かったな」

龍美「あの二人、これからも仲良くやっていくんだろっね」

創記「そうだな。さあ次の世界はなんだろうな？」

その言葉と同時に映像も変わり映し出されたのは、謎のバイク型のメカと逆三角形の周りに赤い炎が燃えている映像。

創記「デルタの世界か・・・」

第12話

天国と地獄と記録者（後書き）

第12話 天国と地獄と記録者、どうでしたか？

創記「刃也達は怪人のままか・・・」

まあ、一度怪人になってしまったのは戻れないのが決まりだと思っ
てね。

刃也「火野映司は元に戻っただろ」

天羅「アंक死んじやったけど・・・」

いや、戻らない場合剣の悲劇がまた起きるし、アंकも映画で復活
するし。

創記「あの二人はいつたい何者なんだ？」

あの二人はディエンドポジションになる予定です。なお女性の方は
DEAD POOL ZEROからいただきました。ありがとうございます！

天羅「そついえば龍美ちゃんは？」

疲労が祟って病室で寝てる。看病は蜘蛛弥恭介。

創記「なんであいつだよ」

刃也「まああいつはほっとくか」

創記「酷いな、お前!？」

原因創記だろ。まあ

龍美意外の全員「次回もよろしく!」

龍美「うゝん」↑病室で寝てる龍美。

蜘蛛弥「なんで俺が・・・」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6243q/>

仮面ライダーディアス 世界を廻る記録者

2011年12月1日08時52分発行